



平成 31 年 2 月 8 日

各 位

会 社 名 双 葉 電 子 工 業 株 式 会 社
 代 表 者 代 表 取 締 役 社 長 高 橋 和 伸
 (コード番号 6986 東証第一部)
 問 合 せ 先 執 行 役 員 中 村 正 行
 業 務 管 理 本 部 長
 T E L 0 4 7 5 (2 4) 1 1 1 1

通期連結業績予想の修正および特別損失の計上に関するお知らせ

平成 30 年 11 月 6 日に公表いたしました平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正につきまして、下記のとおりお知らせいたします。また、特別損失の計上について、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正

(1) 平成 31 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正

(平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	68,200	700	1,600	500	11.79
今回修正予想 (B)	67,500	500	1,300	△1,300	△30.65
増減額 (B-A)	△700	△200	△300	△1,800	—
増減率 (%)	△1.0	△28.6	△18.8	—	—
(ご参考)前期実績 (C) (平成 30 年 3 月期)	69,353	726	997	1,179	27.81
増減額 (B-C)	△1,853	△226	303	△2,479	—
増減率 (%)	△2.7	△31.1	30.3	—	—

(2) 差異の理由

【売上高の減少要因】

電子デバイス関連事業の有機 EL では、中国市場への拡販が計画より大きく下回ったことや映像用途の需要が低迷したこと等により、売上高は減少する見込みです。また、ラジコン機器においても中国をはじめとするアジア市場の低迷が影響し、売上高は減少する見込みです。

【営業利益の減少要因】

電子デバイス関連事業の有機 EL の売上高減少による影響や、タッチセンサーにおける品種構成の変化等により、営業利益は減少する見込みです。

【経常利益の減少要因】

営業利益の減少および第4四半期の想定為替レートを1USDあたり108円と円高方向に修正したことにより、経常利益は減少する見込みです。

【親会社株主に帰属する当期純利益の減少要因】

経常利益の減少および第3四半期で発生した電子デバイス関連事業の蛍光表示管における固定資産の減損損失などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は減少する見込みです。

2. 特別損失の計上

電子デバイス関連事業の蛍光表示管においては、今後の需要見込みとグループ全体での生産拠点の最適化を検討した結果、フィリピン工場に集約することを決定し構造改革に取り組んできました。しかしながら、当初計画に対して想定外に高難易度製品の生産体制整備に時間を要したことから、収益性の低下による減損の兆候がみられたため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき将来の回収可能性を検討した結果、国内および海外工場で保有する固定資産について、2,218百万円を減損損失として計上いたしました。

以 上